

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

日に日に
新たに
また日に
新たに
なり

秀彰


「何事においても毎日毎日新たな気持ちで努力を続けなくてはならない。
苦しいことや悲しいことがあっても必ず明日が来る。
新たな希望をもってまた努力せよ。」
ということの意味（中国の思想書より）

福島市在住 高橋英昭（昭和三十二年度卒）
秀彰（雅号）

小国高校の 活躍に期待！

小国高等学校同窓会会長

齋藤 弥 輔

(昭和四十五年度卒)



昨年の小国町は少雪、猛暑、豪雨と自然の猛威にさらされた一年でした。今年は年末年始から連日の大雪で毎日除雪作業に追われ大変な年明けとなりました。

世界的規模のコロナウイルスの感染拡大で慣れない窮屈な生活習慣を求められ、様々な行事や会議等の中止など、全国的な自粛状況の中で令和二年度と同窓会総会が中止となりました。五月二十八日に開催された同窓会幹事会の席上で七年間頑張つて我々を引っ張ってくれた安部昌晴前会長が退任する事となりました。後任に副会長の私が引き継ぐ事となりました。

これまでの副会長の経験に基づき安部前会長のリーダーシップと功績に負けないよう頑張つていきたいと思っています。

私は、春は山菜とり、秋はキノコ採り、小国の四季の写真撮影、飯豊連峰と朝日連峰の山々が大好きで小国山岳会会員、山岳救助隊等をやっています。

世界中がコロナ感染で混沌としている中でも、我母校である小国高校の生徒諸君は素晴らしい活動をしています。それが第三回小規模校サミットです。前回までは小国高校が中心となり、夏休みに町内で開催していましたが、今年はコロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの開催となったが、

北海道から沖縄県まで十一道県二十一校、約百七十人が参加をした大イベントとなり、司会進行などの活躍は目を見張るものがありました。私は七月二十八日に行われた探求型学習のトークフォーカダスと十二月十二日に開催された小国フェス(文化祭)にも参加をさせて頂き生徒たちの声を聴く事と元気をもらいました。残念ながらアメリカのデンバーイースト高校への短期

留学事業は社会情勢を鑑み中止となりました。

また県外からの地域留学制度により男女五名が小国高校に入学する事が決まり、また、新しい風が母校に吹きそうです。

我々の母校である小国高等学校の歴史と未来が続くように、同窓生六千人が結集していく事が不可欠です。

同窓会も学校そして後輩の為に、盛り立てる様支援していきたいと思っています。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

いあいさつ

小国高等学校校長

地主 好



同窓生の皆様には、日ごろより、本校の学校運営・教育活動に対し、ご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、二年前の年末に発

生した新型コロナウイルス。その猛威は留まるどころを知らず世界を席巻しています。世の中は混沌とした状況ですが、本校における学校教育も例外ではなく、多大な影響を受けました。年度当初から緊急事態宣言が発令され、学校は臨時休業となつてしまいました。学校行事も大幅な変更を余儀なくされ、本校の一大行事である全国高等学校小規模校サミットの開催も危ぶまれました。

このような中で、教職員が見出した活路は、「ICT環境整備」でした。それによつて、授業も小規模校サミットもオンラインで実施が可能となるからです。義務教育段階では、文科省によるGIGAスクール構想によりICTが整備されるのですが、高校は範疇外なのです。

しかしながら、同窓会はじめ小国高校支援する会や後援会、小国町の皆様のご支援により、ようやく十月下旬に「二人一台iPad」を、二年生のみですが、整備することができました。そして、十一月の全国小規模校サミットもオンラインによる実施にこぎつけることができました。今後は、通常の授

業においてもオンラインとオフラインのハイブリッド型授業を研究してまいります。ICT環境整備のお陰で本校はsociety1.0(狩猟社会)からsociety5.0(超スマート社会)までを兼ね備えた理想郷と化しました。来年度には県外(埼玉・栃木・岐阜・大阪・和歌山)からの留学生五人を二学年に一年間迎え入れ、さらに再来年度の高校入試では全国から生徒を募集します。小国高校は新たな時代を迎えます。

生徒一人ひとりが輝く魅力ある学校を目指し、職員一同、より一層努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



おたよりコーナー



母校の記憶

今 謙悦



(昭和三十年度卒)



山形県立小国高等学校を卒業して、六十六年目になりますから、その二年前の六十八年も前のある日の事で、鮮明に思い出されることがあります。

それは三年生の時の国語の時間で、菊地教頭先生の授業でした。私は定時制の農業科で、国語や数学などの一般教科は家庭科の人達と合同の教室でした。

短元は「万葉秀歌」

石走る

垂水の上の

さわらびの

萌え出づる春に
なりにけりかも

教科書には有名なこの歌がありました。先生は別な歌を板書したのです。

億良らは

今は罷らむ

子泣くらむ

それその母も

我を待つらむぞ

先生は「それその母も」

と言うのは誰の事ですか。

教室はがやがや、「泣いて

待っているだろう子供の母親

だと言う。

「われの子供の母は、われの妻」だよな。うまいことを言うものだ。

先生は、「直接妻と言わな
いところで戯笑とか諧謔が
こもる作品になっている」と
と纏められた。

卒業したら、登校の日の
週に三日の分も農作業が進
んで、夏の間はゆつくり昼
休みも出来た。そんな時に、
見たものや感じた事を書き
溜めたら、短歌らしい七・
五調の文が数あることに気

が付いて、意識して短歌に
仕上げる様になったのでした。
昭和三十三年から三年間は、
朝日新聞の山形版の短歌欄
に投稿して、選者のご指導
を戴きました。先生から誘
われて、昭和三十六年からは、
先生が主宰しておられる「金
雀枝短歌会」に入会して、
会誌『えにしだ』に発表し
て来ました。

平成二十九年三月号を以て、
会誌『えにしだ』は七十三
年の歴史を閉じました。

今は、同好の仲間と「小
国短歌会」で活動を続けて
おります。

母校での、彼の日の記憶
を温めながら。



「この夏の日に」

今 謙悦

十歳の我が耳に聞く蟬時雨戦死公報午後を受けたる
借りし米粥一杯に曇り夜を少年我は祖母に従ふ

高校を終へたる年に牛を飼ひ田を鋤く事も習ひ覚えき
年金の支へなき農に不安持ち杉を植ゑ継ぐ三十歳まで

妻が来て長男生まれ我が暗き性に変化の兆し持ちにし
兼業を促され来て農協へ我は勤めを持つ身となりぬ

七十俵の供米出来る稲作に減反政策具体となりき

不惑とふ齡に課長の職にあり子への学資の積み立て始む

三人の子供思へば薄給のわれは中途の就職なりぬ

長男の学資送金終えたれば氣力体力初老の域か

男孫無事に忌明迎へたり戦後五十年この夏の日に

(この作品十一首は六十歳の回想詠です。それから今日ま
での二十五年はまったく幸せな老後となりました。)

書とのかかわり



渡部 ます子

(昭和三十二年度卒)



下記写真の書は、古今和歌集そして伊勢物語の第八十二段「渚の院」に収録されている、在原業平の詠んだ和歌。

世(代)の中に(二) た(多)えてさ(佐)くらの(能)な(難)か(可)りせば(八) 春のこころは(者)のどけ(介)か(可)らま(万)し

と、変体かなでちらし書きしたものです。

コロナ禍で、ゆつくり花も愛することも俣ならない世の中ですが、せめて人の心を騒ぎ立てる力のある、

桜の素晴らしさを感じ取れたらとの思いで、筆を運びました。

去る一月に開催された、小国町文化協会主催、白い森芸術祭に、香苑書道会として出品したものです。

書との出会いは、昭和三十八年役場に提出する履歴書をお願いした、当時の勤務先(東芝セラミックス(株)小国製造所)の上司であった菅原末吉先生の筆蹟に、深い感銘を覚えた時でした。それは、白い紙に毛筆で黒々としたためられた、繊細で凛とした品格のある楷書でした。

お手本を見ながら精一杯頑張りましたが、とても情けないものでした。いつか機会を得て、書を嗜みたいと念じておりました。

昭和六十年暮れ、菅原先生がご自宅で書道教室を開催されたと連絡を受け、すかさずご師事を仰ぎました。多くの仲間と厳しくも楽しくご教授頂き、平成二年に教授の免許状を授かる事が出来ました。

平成十八年、菅原先生が急逝なされ、途方にくれましたが、古参と云う事で、香苑書道会代表として、同

志と共に継続してまいりました。しかし、書の道は難しく奥深く、書に携わって三十六年経ちましたが、漢字、かな、臨書、くらしの書等、いまだに思うように表現できずにあります。

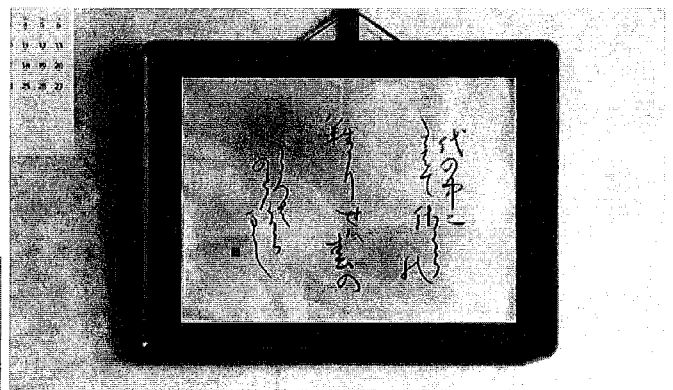
今は、小学生から八十代までの書の好きな人達と、日本習字の「正しい美しい愛の習字」の理念に沿って、白い紙面に向かって正座し、心を込めて筆を運ぶ時の緊張感と優雅さを味わいながら、お互いに切磋琢磨しております。

毎年、町の白い森芸術祭や、山形県小中高生書道展、文部科学大臣賞のある日本習字展等に出品し、学習の励みにしております。

現代はIT時代となり、日本語も横書きが多い中、魅力ある筆文字に出会うと、心が和み喜びを感じます。

これから、お茶のひとときに癒され、和やかな中に、礼儀を重んじ、日本の伝統文化である書を楽しみながら、精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、同窓会員の皆さまのご健康と、新型コロナウイルスの一日も早い収束を、心から祈りたいします。



さまざまな書体
伸びやか筆遣い
香苑書道会の作品展
小国町文化協会
書道会 渡部 ます子
代表の作品が白い
森芸術祭に出品され
て会場がためた交通安全
の標榜も紹介している。
はります。

作展は小中高生と一般
の会入と渡部代表が計
30名出席した。観覧期間
は1月、各々が「たこあ
げ」「不機嫌」などの字
や漢字の題材を選び、
楷書、行書、草書、かなど
いったん書体で書き上げた。
「たこあ」の字を縦に
長く表現した印象的な作品
も、「墨年少の小学一年生
も、会員は大きな筆で
大きな字を書くのが気持ち
良さう」と渡部代表。
このほか「気をつけて家
族にかけ交通安全」「や
めろと信託無視と「ハ
ル」など、会員の小中高
生が考えた交通安全の標榜
も紹介している。白い森芸
術祭の一環。(五十嵐 隆)

会員がさまざまな書体でした
ためた作品を展示している
小国町・白い森芸術祭
グランドアスレ



小国郷人会会長



保科 秀三
(昭和四十一年度卒)



小国高等学校創立七十二周年誠におめでとうございます。

また、同窓会報第三十二号の発行につきご厚情を賜りありがとうございました。

私は、小国高校卒業後五十四年経ちました。出身は黒沢で高校へは汽車通学でした。朝寝坊の私は乗り遅れまいと毎日松岡駅まで走ったものでした。お陰様で七十歳を越えた今でも足には十分自信があり丈夫です。雪深い山奥から二十才の時上京し五十二年になります。二十八歳で会社を興し、株式会社保科製作所として、四十四年経ちました。

主に、清掃工場や下水道局水再生センターのプラン

ト製作及び取り付けなどを行う会社です。

平成二十四年には、小国北部中学校の三年生の皆さんが見学に来られました。この中学校が当年度で閉校になるとの事で、小国出身者が東京で頑張っている先輩の会社を訪問する。という事で、修学旅行の際、東京スカイツリー見学後に私の会社に見学に来られました。三年生全員、校長先生、担任の先生、それにつき添いの先生方です。生徒の皆さんはとても明るく素直で輝かしく感じられました。

私は、現在、山形県小国郷人会会長として平成二十四年から勤めさせて頂いています。

小国郷人会とは、昭和三十五年(小国親睦会と命名し発足した団体)翌年山形県小国郷人会と改称し現在に至っております。当時の(広報おくに)の記事には、「昭和三十六年六月第八十八号に東京で小国郷人会を結成相互間の連結、親睦を計ることになり、結成後、親睦会を行い、懐かしい盆踊りなど飛び出し、楽しいひと時を過ごした。」と記され、郷人会は今年六十一周年を

迎えます。総会及び懇親会は年一回、二月か三月に行い、参加者は六〇名から一〇〇名ほどです。

小国町からは、町長はじめ町職員、観光協会の方々等多数お招きしております。

昨年に引き続き今年度も新型コロナウイルスの影響で中止となりました。一日も早い終息を願っています。関係者の皆さま方の益々の活躍をお祈り申し上げます。

忙しさの中の

充実感



奥田 あさ子
(昭和四十二年度卒)



昭和四十三年春卒業してから早いもので半世紀が過ぎました。皆様お元気です

ようか。思い起こせば今までいろいろな事がありました。仕事、結婚、子育て、介護、等々。その時々は大変と思っても過ぎてしまえばよい思い出になるものですね。

三人の息子たちに恵まれ、結婚して家を離れ、今は夫と二人生活、幸い健康にも恵まれ、趣味の筆やヨガ、公民館でのサークル活動、民生委員の仕事と忙しい日々を送っています。

中でも民生委員は、十五年にもなり地域のお年寄りの相談など、困っている人の力に少しでもなれたらと思いい、もう少し頑張ろうと思っています。

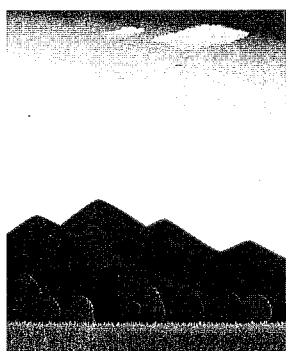
今年は丑年、年女です。

最近仲間との会話で、認知症の事が話題になります。四人に一人がなる時代と言われるので、皆さんとても気になるのです。実際私の仲の良い友達が認知症になり寝たきりになってしまったのです。私が会いに行っても誰かわからないのです。悲しくなります。認知症にならない為には、日々どうすればよいのでしょうか。興味のある事には、積極的に参加し、気の合った人達との楽しい会話が必要かな

と思います。

私には、小学生から大学生まで七人の孫がいます。この子達には、いつも元気をもらっています。大学生の孫は、入学式すらできず今でもオンライン授業です。楽しい学生生活も味わえないと思うと可哀想になります。今から十六年前、宅建の資格に挑戦してみようと思いい若い人達に交じって専門学校に入り勉強しました。年一回の試験を五年続けて落ち、家族や友人達には、諦めない事に感心され、六年目ようやく合格した時は、何とも言えない充実感がありました。その時の感激は忘れられません。人はいくつになっても挑戦出来るものです。

私の青春時代を過ごした自然豊かな小国の町が、とても懐かしくなります。楽しかった思い出ばかり浮かんできます。



夢は、小国町から プロ野球選手



小田 浩史
(平成三年度卒)



母校を卒業して三十年の年月が経ちました。

今振り返ると多くの思い出が甦ります。学業や行事等、また部活動を共に過ごした仲間やご指導をしてくださった先生方には深く感謝しております。

高校生活では楽しい事、辛い事が多々ありましたが、壁にぶつかった時は仲間や先生方に支えてもらい、心身ともに成長しました。今、社会人となりその時の経験が活かされております。

部活動では、三年間野球部に所属し仲間と汗を流しました。毎日、グラウンドで暗くなるまで走り、ボールを追いかけていました。また、

土日は母親に弁当を作ってもらい先生の運転するバスに乗り込み遠征に行った事が昨日のように思い出されます。甲子園予選は1回戦敗退でしたが、野球を通して仲間との深い絆ができました。

現在、高校での野球経験を活かし野球スポーツ少年団の監督として子供達の指導を行っています。

私は、小学校四年生から野球をしており、スポーツ少年団時代に指導してもらったコーチも在籍しており懐かしい話をしながら一緒に指導しております。

少子化という事もあり団員数が少なく小国の野球を活性化させようとコーチ陣と取り組んでいます。幼児や未入団の子供達に野球の楽しさを伝えようと週一回野球教室も行っています。

小国町からプロ野球選手になつてくれれば！というのが私の夢です。また、子供達には野球だけじゃなく、挨拶や礼儀がちゃんとできるように指導も行っています。

【自分には厳しく、人には優しく出来るような人】になつて欲しいと私は子供達に常に話しています。今の世の中、SNSでの誹謗中

傷やイジメなど、相手の気持ちや考えない人が増えていきます。野球を通じて仲間や周りの人に気遣いできるような人になり、これからの将来に役立てていってもらえれば幸いです。

子供達の行動や言動は私にも大きく影響しており、共に精進しております。

今後、微力ではありますが小国町の活性化に貢献していきたいと考えております。

今に繋がるもの



(旧姓渡部)
小川 智 絵
(平成二十一年度卒)



気づけば卒業して十年以上が経ちました。バレー部でお世話になった駒澤さんに声をかけていただき、今回学生ぶりに原稿用紙に向かっています。社会人になりペンを手に取るのは一日

に数分しかない今、貴重でもあり以外にも楽しい時間でもあります。

たまに高校の頃を思い出す事がありますが、もったいない事をしたなと後悔する事があります。それは、もつと勉強をしておけばよかった”と、英語もパソコンも学んだはずなのに、いざ必要となった時に、うろ覚えで活用できず、もつと高校の頃にたたき込んでおけばよかったと身を持って思います。

勉強よりも打ち込んでいたものが部活動でした。高校から始めたバレーボールは引退するまでの二年半では足りないくらい真剣に楽しく取り組んでいました。二年から顧問の先生が変わりと変わりました。GWや年末年始は他の部が休み中、バレー部が体育館を独占して一日中部活動をしていました。半日経たないうちにTシャツは汗でぐっしり。何度着替えたか。鮮明に覚えていきます。根性が鍛えられた時間でした。できることなら体力・筋力がピークの三年のあの頃に戻ってバレーを思い切りやりたいです。

高校卒業後は、山形市にある美容専門学校へ進学しました。小国町を離れ一人暮らしをしながらの学校生活は、寂しくもあり大変な日々でした。

国家試験にも無事合格をして、今は山形市で美容師をしています。美容師は、資格を持つているからといってすぐにお客様に入客できるわけではありません。何年も練習してお店のテストに合格してやっと入客できます。本当に根気強くなが大切でした。部活動で鍛えられていたので、心が折れることなく合格できました。働き始めてまる九年、お客様に「小国町出身」と伝えらると必ず「雪深い所」「素敵な所」「小国の人っていい人ばかりでいい所」ととても素敵な反応が返ってきます。山形市から小国町まで車で一時間半、慣れてしまえば近いものです。社会人になつてからも、月に一度は実家に帰ってきます。帰ってくれば国道沿いには変わらず小国高校があります。生徒数は年々減少傾向にあると思いますが、これからも変わらずそこに在り続けたいです。

恩師回想

小国高校の思い出

林業科教諭

加藤 勇 栄先生

昭和三十八年～四十二年



私は昭和三十八年四月から、四十二年三月まで小国高校に四年間お世話になりました。

通勤は汽車でトンネルを抜けると、鼻の穴、ワイシャツの襟など真黒になり、朝礼には着替えて出ることもありました。五月頃になると車窓から見える山々の木立は新緑を増し、整然と並ぶ杉林は圧巻でした。通勤は半年くらいでPTA会長さんにお世話になり、町営住宅に住むことになりました。林業科一年生の担任を命ぜられました。まだ幼さが残り、学習意欲あふれる五十名の生徒を預かりました。この生徒たちの希望を叶えるにはと熟考し「一人は皆

の為、皆は一人のため」を目標にすえ、入学式の日、父兄に「三年間連帯責任制」を行う事を約束しました。学年が進むにつれて生徒指導の回数が減り、学習力が向上し団結力が出てきました。

学校林は小芦沢、栃倉、種沢の三ヶ所にあり、夏休み中は種沢の演習林で、測量、立木調査、年輪調査、下刈の実習をしました。下刈実習は炎天下で蒸し暑く、大粒の汗を流しながら一生懸命働いていました。下刈後、日光を浴びた杉林はすくすくと育つていきました。

修学旅行は坂元校長を筆頭に、総勢二百名の集団で関西方面の大阪、京都、伊勢神宮、白浜の熱帯植物園、那智の滝、千畳敷等見学しました。行く先々の旅館やお店で「規律正しい良い生徒さんですね。」とお褒めの言葉をいただき、胸が熱くなりました。

しかし、楽しいことばかりではなく、昭和三十九年四月入学式の翌朝、学校火災がありました。職員および生徒達は、焼失した校舎を無言で後片付けしました。六月には、新潟沖地震があり、

道路は波打ち、電柱は大きく揺れ、生徒達は道路に避難しうずくまって止むのを待ちました。

秋には東京オリンピックが開催され、聖火リレーに選ばれた生徒は、宇津峠から本校前の道路を通り新潟県関川村まで走りました。全校挙げて、沿道で応援しました。

就職試験の為に補習授業を行い、秋田営林署、長野営林署、県庁、小国町役場、県外および地元企業等に就職する事が出来ました。

秋には、町の運動会があり、家族で競技に参加しました。運動会が終わると、輪になつてお弁当を食べ、地元の方々から、わらび、ぜんまい、キノコの山菜料理をごちそうになり、和気あいあいと楽しく過ごした事を思い出します。

ご理解ある父兄始め、希望あふれる生徒達に恵まれ、地域の方々にも温かく接していただいた事は、私の生涯の良き思い出になっています。

小国高等学校の益々の発展をお祈り申し上げます。

私の目に留った一点の書、これは面白いと最後まで読んでいくと、子供達が小学校時代にお世話になった渡部仁先生の書と知り、先生も小学生時代の恩師、早速先生に電話することに、展示している書を小国高校同窓会報に掲載許可をお願いした。快く快諾していただき、小国道中唄を作詞した相馬家、小国小唄を歌われていた白萩屋長岡家の許可を受けてくださいとのことで、両家の許可を得て掲載しています。(文責 駒澤)

小国道中唄

作詞 相馬啓吉
作詞 渡部仁雄

花の小園を春つとふは
君はうさぎ 谷わら
わしは町原 松岡や
二人手をとり 伊佐領と
文を授け込む箱の口
誰か見ている眼鏡橋
共に春を添う所洞門よ
こゝで お登り弁当沢
喉を潤す 明次や
文を手抱そいづのふ
酒も煙草も 酒沢で
どんな苦学も 宇津峠
玉を汗で乗り越えそ
一息と相馬の松根根た
腰打ち 下ろし
秋葉のおも 眺めつ
君は百まわしをえそ
花れて春も離れど
ようやう心に落合の
明神様を伏し拝み
切れた靴紐を脱ぎ捨て
茶屋にへばりて襟衣
今度文や あの手のみ
ドン ドン

小国小唄

初代宿舎今三馬通廣重
宿舎で春を新道開く
宿舎新道開く 明治大年には小国
まを開通した
小国は明治三十四年の作と
多岐流行したドン節の唄に
春と唄う

花の小園を春つとふは
町原 松岡 上伊佐領
文を授け込む箱の口
心細い眼鏡橋
明次橋(？)はゆるぎ
共に春を添う 気なら
文を手抱そいづのふ
酒も煙草も 酒沢や
春のつらさを 宇津峠
明神様と手を合え
二人の心に落合で
明日は手のすお別れか
思ふは涙が先を立つ
固い約束はけりて

小国高校の 現況と御礼

小国高等学校 教頭

齋藤 和 浩



日頃より、本校教育活動に対しまして、多大なるご支援・ご協力をいただき誠に感謝申し上げます。今年度は新型コロナウイルスの影響で年度初めの4月より5月末まで休校を余儀なくされ、2カ月間は授業ができない状態にありました。現在は休校にしないという文科省の考えのもとにあります。今後の新型コロナウイルスの感染拡大の影響で再び休校等の措置が取られることも危惧されます。そのため、リモートで授業を行えるようにという事で、一人に1台の端末を持たせることとしました。年度途中とい

うこともあり、保護者の負担を考え一人1台端末導入のための初期費用の一部として20万円を支援いただきました。ありがとうございます。導入した端末は授業や探究活動、小規模校サミットで使用しております。

今年度は第3回「全国高等学校小規模校サミット」オンラインを11月14日に開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、小国町に参集する形ではなくNODを用いてオンラインで行いましたが、参加しやすいということもあり、北海道から沖縄まで全国各地から21校、総勢162名の参加がありました。今回は「今ここで起こっていることは、将来日本中で起こりえること、小規模校だからこそできることがきつとあるから仲間と一緒に未来を考えよう」というテーマで、各校の取り組み紹介、講演、ワークショップが行われました。対面ではないため、全体での目に見えた形での盛り上がりは見られませんでした。ネットワーク上のグループご

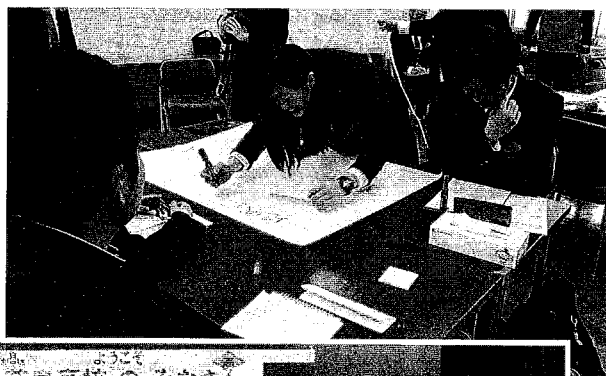
とではかなり盛り上がりがあったようです。新型コロナウイルス禍での開催となりオンラインという初めての試みでありましたが、本校生が一丸となって企画・運営を行い充実したものであった背景には、本校が目標としております、前向きな思考で物事に取組む「まづはやってみよう」が浸透しているものと思います。

ようになった生徒の変容、改めて、本校生の運営能力の高さを感じました。今後このような活動をきっかけに生徒が成長し、学校、地域がますます協働を深めていくことを期待しています。

2年目を迎える文部科学省の「地域との協働による高校教育改革推進事業（地域魅力型）」の活動も、地域の方々のご協力を得ながら行われており、様々な活動を通して生徒たちの成長を感じることができております。また、今年度は内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業（地域魅力科型）」の指定を受け、全国の現高校1年生を来年度1年間、地域留学生とし

て迎える準備を進めております。小国高生にとつての魅力は、「適度な刺激と競争」「得られる多様な価値観」「地元の魅力の再発見」と考えられ、生徒たちのこれからの新しい気づきにつながるものと期待しております。現在は5名（男子3名、女子2名、栃木、埼玉、岐阜、大阪、和歌山）の生徒を受

け入れる予定になっております。さらには、令和4年度より新入生を県外からも募集することになっており、小国高生のますますの活躍が期待されているところであります。今後とも同窓会のみなさま方のご支援をいただきたいと思います。よろしく願いたします。



事務局だより

令和2年度 事務報告

令和2年度はコロナ感染症拡大の影響で、年度末の学校行事同窓会入会式は中止となり、卒業式もこれまで経験したこともない、卒業生、学校関係者だけの式典となりました。それに伴い令和2年度同窓会総会も中止となりました。

田中元会長が病気のため任期途中で会長職を退任された後、安部昌晴氏に会長職をお願いし、母校の為に後輩生徒達のためと快く就任されて、七年以上にわたる会長として勤めていただきました。また、安部昌晴氏は小国町内の役場、企業、商店、町民有志多数を募り、小国高校を支援する会を立ち上げ、会長としてご尽力されています。令和2年度役員改選により、同窓会長を退任され、支援する会長に専念する事となりました。同窓会会長の後任に副会長齋藤弥輔氏が就任されま

した。新副会長には安部康之氏（昭和六十三年度卒）が就任されました。

同窓会支援

小国高校の特色ある教育制度の一つであるアメリカフロリダ州への短期留学が令和2年度は世界規模でのコロナ感染症拡大から中止となりました。希望して小国高校に入学した生徒もおられると思いますが、残念です。また、アメリカへの修学旅行も中止となりました。全国小規模校サミットも

第三回目を迎える予定でしたが、集合活動が出来ず、全国の多くの参加校がリモートで参加し、大成功を収めました。生徒数も減少する中、生徒達は多くの分野で頑張っています。

小国高校は令和三年度より、他県留学・入学制度が始まります。コロナ感染症の中、学校運営も大変な中ですが、同窓会といたしまして、生徒達が早く学習できる環境づくりに支援していきたいと思っています。

これからも、皆様の末長いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成31(令和元)年度同窓会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,000,000	0	1,000,000	675,000	△325,000	振り込み納入者手数料引き
入会金	125,000	0	125,000	125,000	0	@5000円×25名
繰越金	229,987	0	229,987	229,987	0	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	0	0	
雑収入	13	0	13	1,992	1,979	短期留学補助返金預金利息等
合計	1,355,000	0	1,355,000	1,031,979	△323,021	

支出の部

(単位:円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	予算残額	摘要
需要費	20,000	0	20,000	8,000	12,000	会長卒業祝賀会参加負担費等
会議費	140,000	0	140,000	20,454	119,546	各種役員会諸経費等
通信費	200,000	0	200,000	105,926	125,714	ハガキ、切手、30年度会報発送費込み
印刷費	70,000	0	70,000	47,080	22,920	振込用紙・封筒印刷
慶弔費	10,000	0	10,000	1,888	8,112	弔電等
教育助成費	360,000	0	360,000	306,881	53,119	アメリカ短期留学助成(200,000円)卒業記念品、修学費記念品等
支部助成費	100,000	0	100,000	74,000	26,000	町内地区11支部助成金
特別事業基金	0	0	0	0	0	
事務費	30,000	0	30,000	14,534	15,466	事務用品(用紙等)、インク代
事業費	420,000	0	420,000	341,398	78,602	記念式典、総会経費会報発行等
予備費	5,000	0	5,000	0	0	
合計	1,355,000	0	1,355,000	920,161	434,839	

収入決算額 1,031,979 - 支出決算額 920,161 = 通帳残金 111,818

※残金の111,818円は、令和2年度へ繰り越すものとする。

令和2年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 @1,000円×1,000名
入会金	110,000	125,000	△15,000	卒業生入会金 @5,000円×22名
繰越金	111,818	229,987	△118,169	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	特別事業基金より一般会計繰入
雑収入	182	208	△26	預金利息等
合計	1,222,000	1,355,000	△133,000	

支出の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
需要費	20,000	20,000	0	弁当・お茶代等
会議費	100,000	140,000	△40,000	各種会議経費
通信費	150,000	200,000	△50,000	ハガキ、切手、令和元年度会報発送費込み
印刷費	60,000	70,000	△10,000	総会案内、封筒印刷等
慶弔費	10,000	10,000	0	弔電等
教育助成費	340,000	360,000	△20,000	アメリカ短期留学、卒業記念品等
支部助成費	100,000	100,000	0	町内支部助成
特別事業基金	0	0	0	
事務費	30,000	30,000	0	用紙、インク等
事業費	405,000	420,000	△15,000	会報編集発行、総会経費
予備費	5,000	50,000	0	
合計	1,222,000	1,355,000	△133,000	

令和二年度 会費納入者

令和二年度小国高等学校同窓会会費を納入いただいた会員の方々です。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により日常生活が制約された中でしたが、高額を納入して頂いた方々もおられました。ありがとうございました。また、ご逝去なされた方のご家族様より高額の会費を納入して頂いた方もおられ、小国高校の卒業生はすごいなあと思います。

皆様から頂いた会費は同窓会の目的を達成するため、教育助成、同窓会報発行等の運営に充てられます。これからも趣旨にご賛同いただき、多くの会員の方々に会費納入に御協力をお願い申し上げます。

大口納入者 (一)内は卒業年度 三十口 三万円 伊藤 征志(36) 二十口 二万円 安部 昌晴(40) 十口 一万円 貝塚 京子(43) (旧姓宮嶋)令和 二年八月逝去 ご家族様より ご冥福をお祈り 申し上げます。 吉田 文雄(26) 菅野 和子(29) 遠山 雅晴(33)	矢部 昭蔵(34) 松尾三子(35) 近 侃(39) 川崎 秀樹(43) 田村敬二郎(43) 五口 五千円 永井 主計(27) 今 末子(31) 須貝 七蔵(32) 曾根原静雄(32) 新野 玲子(34) 金田 輝義(36) 齋藤 詔(36) 高橋 孝壽(36) 舟山 伴(36) 高瀬 孝士(37) 坪川 民主(39)
--	--

後藤 恵子(47) 齋藤 弥輔(45) 伊藤 忠昭(53) 保科由紀江(49) 三口 三千円 加藤裕郎(門)(28) (逝去妻良子様より) 島貫 満(32) 鈴木 兵吾(33) 鈴木 幸子(35) 田村 浩(35) 山口美穂子(36) 齋藤 清二(36) 安部 一栄(37) 中村 永大(37) 志田 幸次(38) 梅津 典雄(38) 伊藤 正和(47) 木村 義弘(47) 加藤 修三(47) 中村美智子(47) 遠藤 春男(42) 駒澤 堅一(42) 小山今ひ子(42) 齋藤 利昭(49) 高橋 義彦(50) 二村 強(52) 新澤 和好(63) 二口 二千元 高橋 吾郎(27) 佐藤 修造(29) 渡辺 英雄(29) 金子 永子(30) 高橋ひで子(32) 丹 竜三郎(32) 齋藤 延太(33) 加藤 喜一(34) 仁科 光悦(34) 小山 征次(35) 鈴木 春祥(35) 藤田 栄三(35) 渡邊 武治(35)	亀井 一子(36) 佐藤 剛(36) 佐藤 征夫(36) 渋谷 潔(36) 益田 勝雄(38) 枝川 勝男(37) 小山 正男(37) 木村 明子(39) 齋藤 勉(39) 佐藤 二雄(39) 馬場 一恵(39) 藤田 宏行(40) 勝木けい子(41) 櫻井 旗江(41) 八木 公子(41) 金田 とみ(42) 佐藤 悦子(42) 加藤 京子(43) 小池 松子(43) 長岡美枝子(43) 舟山 政美(43) 茂古沼和子(45) 古川 啓次(46) 本間 泰輔(46) 片桐 英二(47) 山口 節子(47) 齋藤 幸雄(49) 阿部 壽夫(49) 工藤 寧士(51) 齋藤 勉(54)
--	--

昭和26年度卒業 (第二回) 栗原 六蔵 阪井 敏行 昭和26年度卒業 (第三回) 安部 周次 木村 芳雄 宮崎 トミ	昭和27年度卒業 (第四回) 渡邊 次男 加藤 さつき 仁科 吉男 昭和28年度卒業 (第五回) 川上 十太郎 佐藤 末一 昭和29年度卒業 (第六回) 伊藤 幸子 安部 幸子 今 謙悦 佐藤 隆哲 舟山 守男 渡辺 健三 渡辺 松子	昭和30年度卒業 (第七回) 伊藤 幸子 安部 幸子 今 謙悦 佐藤 隆哲 舟山 守男 渡辺 健三 渡辺 松子	昭和31年度卒業 (第八回) 鹿島 よし子 木村 功雄 後藤 輝雄 小林 昇 佐藤 栄一 清水 ハルヨ 長岡 久馬 秘多 好信 本間 正子 松永 純代 昭和32年度卒業 (第九回) 伊藤 博雄	昭和33年度卒業 (第十回) 井上 眞典 後藤 初江 金 忠 高橋 恒子 高橋 昭子 田路 京子 塚原 たま 富樫 忠義 保科 一雄 渡部 ます子	昭和34年度卒業 (第十一回) 石井 幸子 五十嵐 武子 伊藤 紘一 大富 洋子 金子 光一 酒井 サダ子 佐藤 恒子 嶋田 源市 須藤 ユウ子 高橋 親美 丹花 子 塚田 子 新野 幸作	昭和35年度卒業 (第十二回) 古田 洋子 三須 一郎 村上 禮子 村田 ミイ 吉田 ふさ 飯田 武夫 加藤 順二 加藤 登志子 川合 三郎 佐藤 敏美 田村 勝世 西沢 洋子 平田 久子 舟山 修平 舟山 俊策 松原 幸夫 松本 健治 米野 義一 李 光熙	昭和36年度卒業 (第十三回) 安部 靖夫 岩井 志主子 栗田 金雄 小嶋 英昭 佐藤 マキ子 佐藤 忠求 鳥瀧 忠子 長谷部 昇 長本 日出子 渡部 勝男 横山 さだ子 昭和37年度卒業 (第十四回) 佐藤 勇次郎 佐藤 弘 佐藤 謙二 佐藤 木二	昭和38年度卒業 (第十五回) 長谷部 誠一 五十嵐 民雄 齋藤 吉雄 齋藤 八保子 神保 陽子 神保 正三 清野 廣宣 渡部 廣宣	昭和39年度卒業 (第十六回) 安出 文子 梅津 弘巳 遠藤 静代 大泉 成子 小原 富子 小柴 昭治 佐藤 亥三郎 須貝 恵吉 高橋 文子 高橋 廣男 竹田 みゑ子 地蔵 愛子 根本 貴子 根田 憲一郎 原山 一之 舟山 一之	昭和40年度卒業 (第十七回) 伊藤 武男 伊藤 松男 伊藤 豊美 井上 弘 井上 博夫 梅津 茂夫 小椋 民子 片桐 悦子 川崎 修子	昭和41年度卒業 (第十八回) 伊藤 文洋 木村 憲夫 工藤 健喜 近藤 健喜 後藤 美代子 後藤 美代子 神保 美代子 多田 喜久雄 丹羽 道雄 新国 光栄 渡部 洋子 山口 有三	昭和42年度卒業 (第十九回) 加藤 隆芳 金子 三千栄 岸川 よしえ 神保 弘 橋本 佐内 舟山 武彦 舟山 節子 樋口 道雄 渡部 道雄 渡部 道雄 米野 房雄	昭和43年度卒業 (第二十回) 飯田 健二 大野 光子 奥田 あさ子 栗田 寛美 今野 孝男 今野 孝男 齋藤 とき子 齋藤 政志 齋藤 武次 佐藤 哲子 佐藤 みち子
---	--	---	--	--	--	---	---	---	---	--	--	--	--

高瀬清佐今小小木伊 野古水藤山松村藤 博綾ゆう二二昇子子榮 雄子子二二昇子子榮	昭和44年度卒業 (第二十一回)	渡米宮本保舟能塚竹相今岡大梅伊伊 辺野坂間科山條原田馬津藤藤 慎仁文正義昭茂子夫芳実志春 五志子美昭茂子夫芳実志春	昭和43年度卒業 (第二十回)	八森見平田高高高瀬鈴嶋 幡下川田中橋橋野水木崎 健美江文雪博幹公美の美 子雄子子子男実俊重子紀 子雄子子子子子子子子子	昭和45年度卒業 (第二十二回)	渡平半二塚高 部方田宮野 英茂金恵原陽 之義夫美武雄子	昭和46年度卒業 (第二十三回)	渡塩佐金五味木小大伊 部川藤藤幸村野城藤 英一文隆子弘学枝裕 之義夫隆子弘学枝裕	昭和47年度卒業 (第二十四回)	菊小岩伊秋 池川沢藤山 のり嘉清登 子久栄美枝子	昭和48年度卒業 (第二十五回)	渡舟舟松諏鈴佐佐 部山山永訪木藤藤 雄武秋美み昭力武 一久子智博夫彦則	昭和49年度卒業 (第二十六回)	盛佐佐齋川伊伊 田藤藤藤崎藤藤 信美奈子功雄元康 明子子子子子子子	昭和50年度卒業 (第二十七回)	米工木 野藤村 悦優厚 男子子	昭和51年度卒業 (第二十八回)	渡横須伊 部井貝藤 光洋美良 晴一子子	昭和52年度卒業 (第二十九回)	仁長佐佐齋齋 科井藤藤藤藤 正弘順久子子 榮美満子子子	昭和53年度卒業 (第三十回)	栗栗 田田 俊俊 明明	昭和54年度卒業 (第三十一回)	小 野 泰 浩	昭和55年度卒業 (第三十二回)	伊伊 藤藤 広広 美美	昭和56年度卒業 (第三十三回)	伊伊 藤藤 良良 一一	須栗安 貝田部 朝裕康 子己之	昭和57年度卒業 (第三十四回)	笠阿 原部 信信 彦彦	平成2年度卒業 (第四十二回)	井上 優子	平成3年度卒業 (第四十三回)	佐藤 和広	平成4年度卒業 (第四十四回)	川崎 文子	平成5年度卒業 (第四十五回)	安部 奈緒子	齋藤 達也	渡部 淳	平成6年度卒業 (第四十六回)	安部 良一	神保 潤一	田辺 友和	平成8年度卒業 (第四十八回)	馬場 貴久	馬場 智久	平成9年度卒業 (第四十九回)	塚原 友美	平成10年度卒業 (第五十回)	齋藤 与枝子	平成11年度卒業 (第五十一回)	伊藤 秀則
--	---------------------	--	--------------------	---	---------------------	--------------------------------------	---------------------	---	---------------------	-----------------------------------	---------------------	--	---------------------	--	---------------------	--------------------------	---------------------	------------------------------	---------------------	--------------------------------------	--------------------	----------------------	---------------------	------------------	---------------------	----------------------	---------------------	----------------------	--------------------------	---------------------	----------------------	--------------------	----------	--------------------	----------	--------------------	----------	--------------------	-----------	----------	---------	--------------------	----------	----------	----------	--------------------	----------	----------	--------------------	----------	--------------------	-----------	---------------------	----------

令和3年度総会のご案内

令和3年度同窓会総会を下記日程にて行います。

昨年度は、コロナウイルス感染症拡大により、創立記念式典が中止となりました。同窓生による記念講演も中止、総会も中止となり、今年度も状況により変更になる可能性があります。

- 期 日：令和3年5月21日（金）
- 時 間：午後6時00分より
- 会 場：きくよし亭 ☎0238-62-3322
- 会 費：3,000円
- 申し込み：小国高校事務局 ☎0238-62-2054
各支部支部長

平成12年度卒業 (第五十二回)	加藤 信	平成13年度卒業 (第五十三回)	齋藤 亮太	平成16年度卒業 (第五十六回)	駒澤 瑠美	平成17年度卒業 (第五十七回)	安部 直輝	平成19年度卒業 (第五十九回)	木村 諒平	平成20年度卒業 (第六十回)	二村 華織	平成23年度卒業 (第六十三回)	高橋 良季	平成26年度卒業 (第六十六回)	須貝 文哉	平成27年度卒業 (第六十七回)	高橋 衿伽	平成28年度卒業 (第六十八回)	二村 綾香
---------------------	------	---------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------	--------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------	---------------------	-------

令和2年度進路状況

小国高等学校教務キャリア課

進路決定状況 (3学年:在籍数22名 男子11/女子11) 令和3年1月末

進路	進大	短期大学	専門学校等	大学等	その他	西置	県内(宮内)	県外	就職県内	就職県外	公務員県内	公務員県外	自家・自営・他	計
男	2	0	2	0	0	4	0	0	0	0	1	0	1	10
女	0	1	3	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	10
計	2	1	5	0	0	8	1	1	0	0	1	0	1	20

進学先

【大 学】 新潟医療福祉大学社会福祉学部
東北公益文科大学公益学部

【短期大学・短期大学校】
山形県立米沢女子短期大学国語国文学科

【専門学校等】 専門学校日本デザイナー芸術学院仙台デザイン芸術学科
専門学校日本ホテルスクールホテル科/仙台工科専門学校
学校建築デザイン学科/仙台ECO動物海洋専門学校動物園・動物飼育専攻/山形美容専門学校

就職内定先

【西 置 賜】 クアーズテック(株)小国事業所【4】/グローバルウェーブ・ジャパン(株)小国結晶センター/日本重化学工業(株)小国事業所/（株）デンソー山形/東海トリム(株)/日本郵便(株)東北支社

【県 外】 (株)ブルボン新発田工場

【公 務 員】 小国町役場

今年度生徒会に任命された今野優希です。私は、昨年、副会長として生徒会の様々な活動に携わってきました。一年間の生徒会活動を通して、



生徒一人一人がやりたいことを応援できる学校
二年 今野 優希

生徒一人一人が活動に参加しやすくなるように広い視野を持ち頑張ってきました。これまで積極的に生徒会活動に参加してきた経験を生かし、今度は高校全体をもっとより良くしたいと強く思い、今回の生徒会選挙で生徒会長に立候補しました。今年度は新型コロナウイルスが流行しましたが、その壁を乗り越え、各活動で適切な対応をとったうえで様々な行事を行うことができました。体育祭改めGRAND MATCHは、学校行事運営委員会を中心に各学年の精鋭たちが、デットヒートを繰り広げました。クイズ

大会や、Eスポーツなどの新競技を加え、例年よりも多い競技をやり遂げました。また、学校祭では、コロナウィルスの影響で模擬店を出すことができなくなり、学校祭は大丈夫かと心配されましたが、ブルーノートやお化け屋敷などの個人企画から、保健委員会の出し物やフタ芸などのステージ企画まで、コロナウィルスの影響を全く感じさせない盛り上がりでした。そして最も大きな影響を受けた第三回全国小規模校サミットでは、県をまたぐ移動が難しく、オンラインでの開催となりました。初のオンライン開催に不安を抱えながらも、メインファシリテーターの伊藤玲奈さ



オンラインサミット



サミットコアメンバー

んと高橋亜佑那さんをはじめとするサミットコアメンバーが中心となり、みなを笑いの渦に巻きこみました。オンラインに不慣れな中、全国から多くの仲間が参加してくれ、本当に嬉しかったです。小国高校の人と関わる、関わろうとする姿勢は、どの学校よりも勝っていると思います。この小国高校の魅力に引き寄せられている大人がたくさんいることも間違いありません。また、生徒一人ひとりが、自分の役割を果たし、輝いていることも確かです。先輩たちが積み重ねてきた、汗と涙の伝統を、来年度は私たちが引き継ぎ、生徒一人一人がやりたいことを応援できる学校にしていきたいと思っています。

編集後記

ふと窓を眺めれば外は猛吹雪、今日のニュースでは、小国、風速三十六・二メートル、県内で二番目に強い風が吹いた。積雪は例年並み、「去年は全く雪がなかったなあ」と思いながらも雪国育ちの私にとっては、どこか安心感が得られる。

さて、令和二年は、新型コロナウイルス感染症の脅威に見舞われた。これによって、社会が受けた影響力は計り知れない。当然教育現場においても、学校は休校、すべての活動、行事は中止、この先どうなるのだろうと心配した。母校の生徒達は不安を抱きながらも一歩、一歩着実に前進している姿を感じる。必ず新しい時代がやってくる。私たちはそんな母校を見守っていききたい。(高橋)

事務局編集委員

事務局長

高橋 義彦
駒澤 堅一
原田 千鶴子
井上 優子